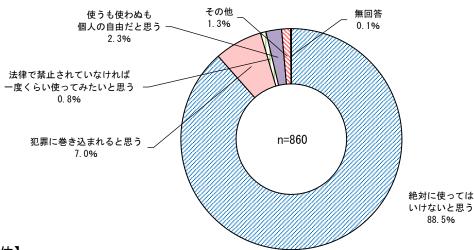
## 7 薬物乱用の防止について

**問** | 覚醒剤や大麻などの違法薬物についてどのようなイメージをお持ちですか。 次の中から1つだけお選びください。



## 【全体】

「絶対に使ってはいけないと思う」(88.5%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「犯罪に巻き込まれると思う」(7.0%)、「使うも使わぬも個人の自由だと思う」(2.3%)の順となっている。

#### 【圏域別】

「絶対に使ってはいけないと思う」については、オホーツク連携地域(92.7%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(91.4%)となっている。「犯罪に巻き込まれると思う」については、道央広域連携地域(7.7%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(7.1%)となっている。

### 【人口規模別】

「絶対に使ってはいけないと思う」については、町村部(92.6%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(91.6%)となっている。「犯罪に巻き込まれると思う」については、札幌市(8.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(7.7%)となっている。

## 【性別】

「絶対に使ってはいけないと思う」については、男性 86.8%、女性 89.9%となっており、「犯罪に巻き込まれると思う」については、男性 6.6%、女性 7.4%となっている。

## 【年代別】

「絶対に使ってはいけないと思う」については、 $60\sim69$  歳(94.2%)が最も割合が高く、次いで 70歳以上(90.2%)となっている。「犯罪に巻き込まれると思う」については、 $18\sim29$  歳(10.0%)が最も割合が高く、次いで  $40\sim49$  歳(8.2%)となっている。

### 【職種別】

「絶対に使ってはいけないと思う」については、主婦・主夫(94.2%)が最も割合が高く、次いで事務職系(89.4%)となっている。「犯罪に巻き込まれると思う」については、自営業(商工サービス業)(10.6%)が最も割合が高く、次いで無職(8.0%)となっている。

### 【居住年数別】

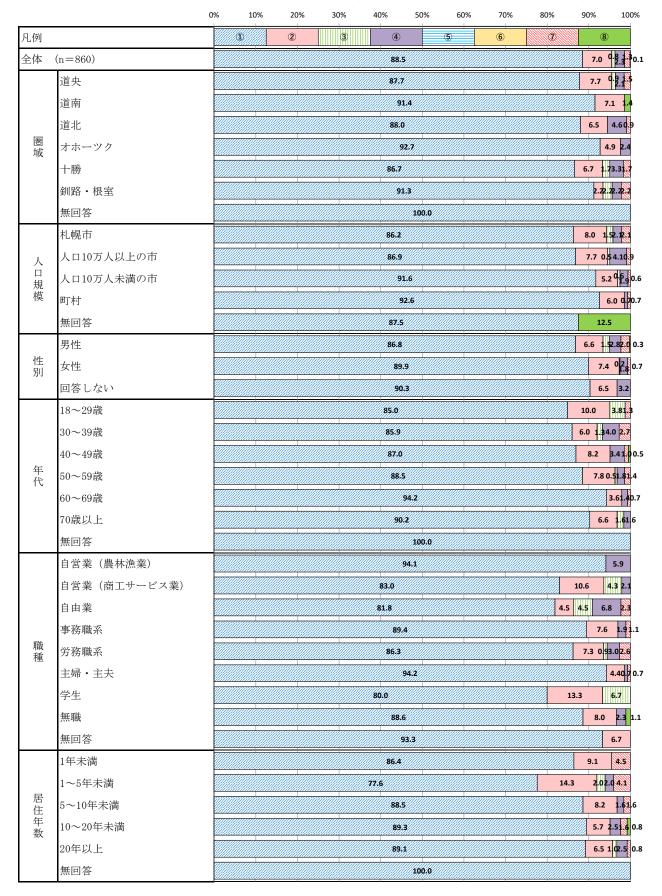
「絶対に使ってはいけないと思う」については、 $10\sim20$  年未満(89.3%)が最も割合が高く、次いで 20 年以上(89.1%)となっている。「犯罪に巻き込まれると思う」については、 $1\sim5$  年未満(14.3%)が最も割合が高く、次いで 1 年未満(9.1%)となっている。

- ①絶対に使ってはいけないと思う
- ③法律で禁止されていなければ一度くらい使ってみたいと思う

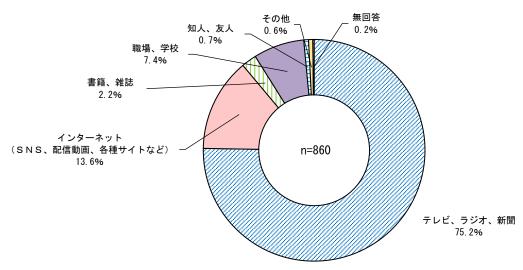
- ②犯罪に巻き込まれると思う
- ④使うも使わぬも個人の自由だと思う
- ⑤ドラッグはファッションの一部だと思う ⑥非常に興味がある



⑧無回答



**問2** 違法薬物の知識やイメージを得た情報源は何ですか。 次の中から1つだけお選びください。



## 【全体】

「テレビ、ラジオ、新聞」(75.2%) と答えた方の割合が最も高く、次いで「インターネット(SNS、配信動画、各種サイトなど)」(13.6%)、「職場、学校」(7.4%)の順となっている。

## 【圏域別】

「テレビ、ラジオ、新聞」については、十勝連携地域(85.0%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(81.5%)となっている。「インターネット(SNS、配信動画、各種サイトなど)」については、釧路・根室連携地域(17.4%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(14.6%)となっている。

## 【人口規模別】

「テレビ、ラジオ、新聞」については、町村部 (80.5%) が最も割合が高く、次いで人口 10 万人未満の市 (78.1%) となっている。「インターネット (SNS、配信動画、各種サイトなど)」については、人口 10 万人以上の市 (15.8%) が最も割合が高く、次いで札幌市 (15.0%) となっている。

#### 【性別】

「テレビ、ラジオ、新聞」については、男性 74.4%、女性 75.9%となっており、「インターネット (SNS、配信動画、各種サイトなど)」については、男性 15.0%、女性 12.6%となっている。

#### 【年代別】

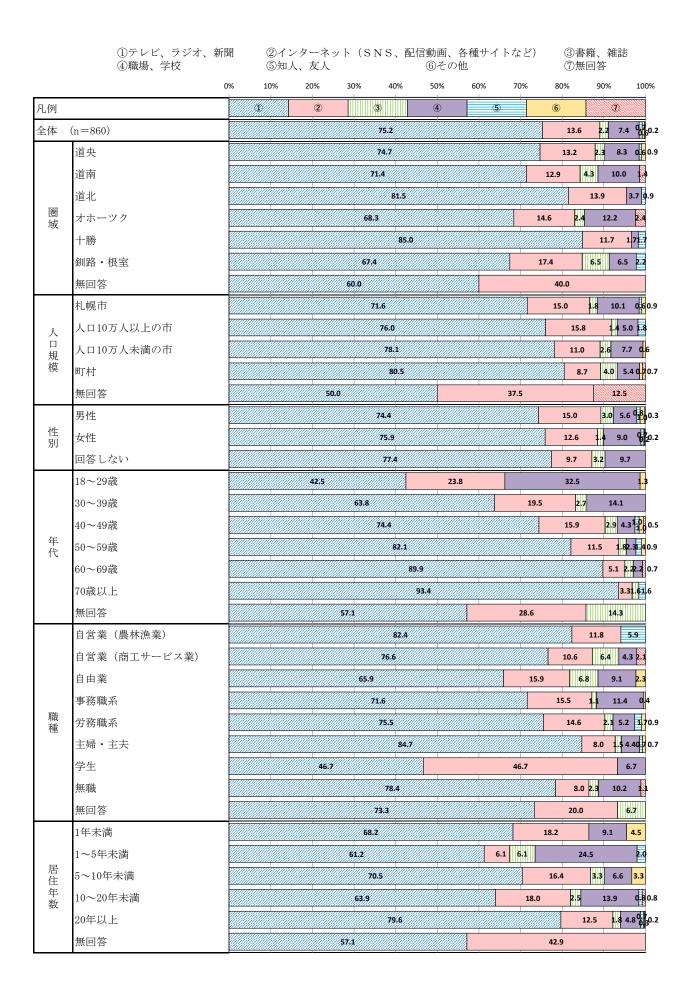
「テレビ、ラジオ、新聞」については、70歳以上(93.4%)が最も割合が高く、次いで $60\sim69$ 歳(89.9%)となっている。「インターネット(SNS、配信動画、各種サイトなど)」については、 $18\sim29$ 歳(23.8%)が最も割合が高く、次いで $30\sim39$ 歳(19.5%)となっている。

#### 【職種別】

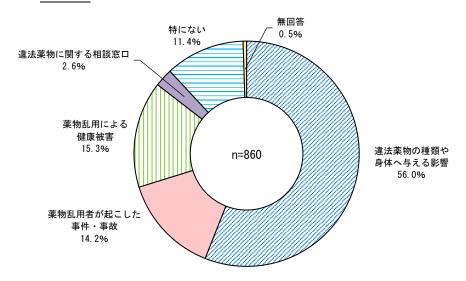
「テレビ、ラジオ、新聞」については、主婦・主夫(84.7%)が最も割合が高く、次いで無職(78.4%)となっている。「インターネット(SNS、配信動画、各種サイトなど)」については、自由業(15.9%)が最も割合が高く、次いで事務職系(15.5%)となっている。

#### 【居住年数別】

「テレビ、ラジオ、新聞」については、20 年以上(79.6%)が最も割合が高く、次いで  $5\sim10$  年未満(70.5%)となっている。「インターネット(SNS、配信動画、各種サイトなど)」については、1 年未満(18.2%)が最も割合が高く、次いで  $10\sim20$  年未満(18.0%)となっている。



**問3** 違法薬物について知っておきたいことは何ですか。 次の中から1つだけお選びください。



## 【全体】

「違法薬物の種類や身体へ与える影響」(56.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「薬物乱用による健康被害」(15.3%)、「薬物乱用者が起こした事件・事故」(14.2%)の順となっている。

## 【圏域別】

「違法薬物の種類や身体へ与える影響」については、十勝連携地域(65.0%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(63.4%)となっている。「薬物乱用による健康被害」については、釧路・根室連携地域(23.9%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(22.9%)となっている。

#### 【人口規模別】

「違法薬物の種類や身体へ与える影響」については、町村部(59.7%)が最も割合が高く、次いで人口 10万人未満の市(58.1%)となっている。「薬物乱用による健康被害」については、人口 10万人未満の市(17.4%)が最も割合が高く、次いで人口 10万人以上の市(15.4%)となっている。

## 【性別】

「違法薬物の種類や身体へ与える影響」については、男性 54.1%、女性 58.6%となっており、「薬物乱用による健康被害」については、男性 15.2%、女性 16.1%となっている。

## 【年代別】

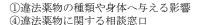
「違法薬物の種類や身体へ与える影響」については、 $40\sim49$ 歳(59.9%)が最も割合が高く、次いで  $60\sim69$ 歳(57.2%)となっている。「薬物乱用による健康被害」については、70歳以上(24.6%)が最も割合が高く、次いで  $18\sim29$ 歳(17.5%)となっている。

#### 【職種別】

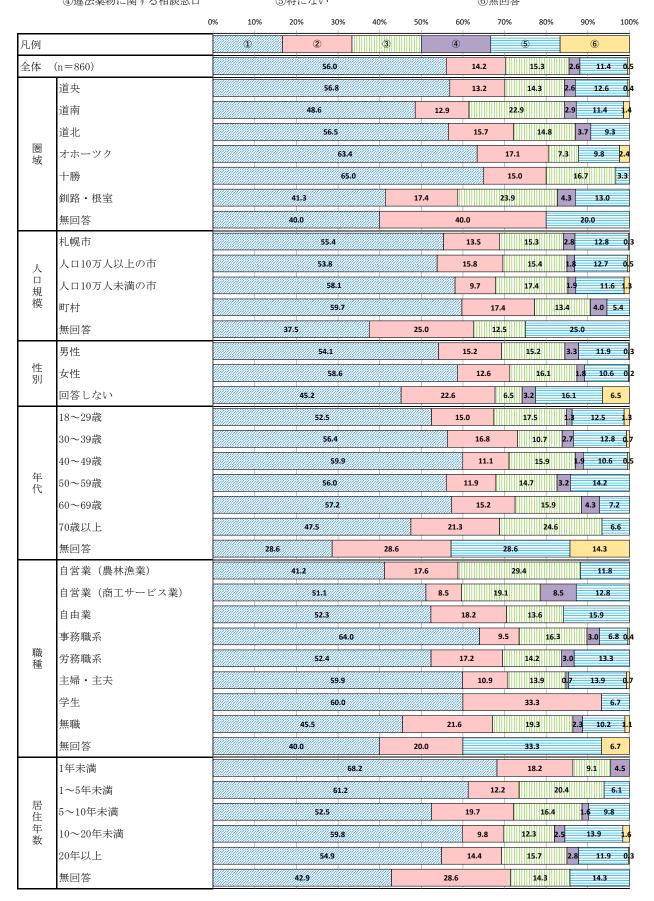
「違法薬物の種類や身体へ与える影響」については、事務職系(64.0%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(59.9%)となっている。「薬物乱用による健康被害」については、無職(19.3%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(19.1%)となっている。

#### 【居住年数別】

「違法薬物の種類や身体へ与える影響」については、1年未満 (68.2%) が最も割合が高く、次いで  $1\sim5$ 年未満 (61.2%) となっている。「薬物乱用による健康被害」については、 $1\sim5$ 年未満 (20.4%) が最も割合が高く、次いで  $5\sim10$ 年未満 (16.4%) となっている。



②薬物乱用者が起こした事件・事故 ⑤特にない ③薬物乱用による健康被害 ⑥無回答



# 「薬物乱用の防止について」の調査を終えて

調査結果によると道民の違法薬物に対するイメージは「絶対に使ってはいけない」や「犯罪に巻き込まれる」など否定的なイメージが約96%と大多数を占めている。反面、ごく少数ではあるものの「使うことは個人の自由」や「法規制されていなければ使ってみたい」などといった肯定的なイメージも見受けられ、年代別にみると若年層、地域別でみると都市部でその傾向が強い。

また、違法薬物の知識やイメージを得た情報源は「テレビ、ラジオ、新聞」が約75%、次いで「インターネット」が約14%であり、これらで全体の約9割を占めている。

違法薬物について知っておきたいことについては、「違法薬物の種類や身体への影響」と「乱用による健康被害」が約71%を占め、次いで「薬物乱用者による事件、事故」が約14%であり、違法薬物の薬理作用やこれに起因する事件、事故への関心の高さが伺える。

今回の調査結果を踏まえ、違法薬物に肯定的なイメージをもつ割合の高い 10 代~30 代の若い世代に向けた違法薬物がもたらす影響(危険性)などの情報発信について、道民の意識や要望に応じ、SNS なども活用した広報啓発活動を推進し、広く道民への周知を図る。

(北海道警察本部刑事部薬物銃器対策課)